

地域産業クラスタープロジェクトの平成29年度の進捗状況等と平成30年度の展開①

凡例
[●] …二次・三次ワーキンググループ設置済
[★] …クラスタープラン策定済
[▽] …対象外

農業① 四万十次世代モデルプロジェクト (四万十町) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
次世代団地におけるトマトの安定生産と加工品開発への具体的取り組み

▼取り組み状況
1次：前作で発生したホモブシス茎枯病障害株の調査とその対策についての勉強会を実施(4～6月:6回)
・H28年度:収量実績32.9t/10a(目標比99%)
・春の農繁期の雇用確保について協議(5月～)
→建設業との協議(以前からの雇用形態・雇用方法があり、農業への雇用確保への活用に難あり)
2次・3次：トマト加工品の試作と絞り込み(4、5月)商品化に向けたデザイン、PR方法や、ブランディング、販売方法などを検討(6月～)
・加工品(トマトカレー)をふるさと納税返礼品として展開(11月下旬～)
・商品(トマト・トマトカレー)お披露目会(2/7)

▼課題
・次世代団地のトマト経営の安定、継続
・バイオマスエネルギーの安定確保
・培地・残さを有効活用できる体制づくり
・雇用の確保(JA無料紹介所などの連携・活用)
・ブランディングしたトマト加工品の販路

【H30年度の主な取り組み予定】
1次：社員研修会などによる病害対策の徹底
・バイオマスエネルギーの安定確保のための実証
・培地・残さを有効活用できる仕組みづくり
2次・3次：トマト加工品のふるさと納税返礼品での展開や学校給食等での活用
・加工品の地元での認知度の向上
・トマト加工品の販路拡大支援

農業② 日高村トマト産地拡大プロジェクト (日高村) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
次世代型ハウス(50a)の栽培開始への支援、新品目(ミニトマト)の地元加工・販売検討

▼取り組み状況
1次：就農希望相談者対応(8名のうち3名がH30に就農予定)、新規就農者・既存農家への営農指導
・研修施設(コスモスアグリサポート: CAS)体制整備
・イチネン農園のハウス建設事業の進捗確認(随時)
・JAコスモス第2トマト選果施設落成(11月)
・イチネン農園の生産拡大(1.6ha、12月着手)
2次：加工施設建設に関する打合せ(わのわ会、日高村、JAコスモス)、村の駅「ひだか」運営協議
3次：専門家を招致して、日高まるごとイタリアンプロジェクト全体構想に関する協議を実施(7月、10月)
・オムライス街道(スタンブラー 第5弾・6/12～3/25)
・日高村絵本コンクール(テーマ：オムライス)

▼課題
・新規就農者の確保
・イチネン農園ハウスでのミニトマトの経営安定
・JAと連携した加工施設の利用検討
・日高まるごとイタリアンプロジェクトの全体構想の作成

【H30年度の主な取り組み予定】
1次：イチネン農園の生産拡大(1.6ha、H30.7月完成)
・CASの研修生の確保、トマト栽培マニュアル改正、定例会による進捗状況確認
2次：H30事業を活用した加工施設建設に向けた支援
・加工原料増加対応の協議、日高わのわ会の加工場(商品及び施設の有効利用)に係る協議
3次：イタリアンプロジェクトの具体的な戦略策定

農業③ 南国市還元野菜プロジェクト (南国市) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
次世代型ハウスでのピーマン・パプリカ栽培の開始と、さらなる生産拡大の検討、電解水素水の野菜の収量や機能性向上効果検証継続

▼取り組み状況
1次：次世代型ハウスの生産安定に関する協議を実施
定植：ピーマン(8/29)、パプリカ(9/11)
収穫開始：ピーマン(9/25～)、パプリカ(11/21～)
1月末収量：ピーマン18.3t(計画対比84%)、パプリカ13.8t(計画対比82%)
2次：パプリカパウダー、ペーストの試作(2か所)
・商品化に向けて、地元飲食店に試作を依頼
3次：還元野菜セット販売(4～5月:251セット)
・JA南国市かざぐるま市の一角に、還元野菜コーナーを設置(12月～)

▼課題
・生産の核となる次世代型ハウス経営の早期安定
・還元野菜生産者、品目の拡大
・加工分野における新たな方針・方向性の検討
・還元野菜セット販売の受注方式の変更

【H30年度の主な取り組み予定】
1次：次世代型ハウスの安定生産に向けた技術支援
・還元野菜の生産拡大(生産者、品目の拡大について協議)
2次：WGにおいて、加工分野における新たな方針・方向性の検討
3次：セット販売の品目充実による還元野菜セットの販売強化
・直販所の還元野菜コーナーの拡充



農業④ 日本一のニラ産地拡大プロジェクト (香南市、香美市) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
ニラの生産強化7戸・1.32ha、自動そぐり機15台整備、ニラプロジェクトの再強化に向けた取り組み

▼取り組み状況
1次：経営安定を目標に事業申請への支援
・新規就農・品目転換農家向け「グリーンカレッジ」開催
・そぐりセンター整備に関する協議を実施
ハウス整備 7戸:1.32ha(うち新規4戸、59a、規模拡大3戸:73a)
自動そぐり機15台整備

2次・3次：香南市農業活性化地域協議会ニラ部会、外商部会の開催(2次・3次WGへの位置付け)
・香美市の2次3次WG設置に向けた協議(クラスター育成セミナーへの参加)

▼課題
・そぐりセンター設置に向けた協議の継続、ニーズの把握
・カットニラ(冷凍)の業務筋でのニーズ把握
・2次・3次WGの強化(ニラプロジェクトの再強化など)

【H30年度の主な取り組み予定】
1次：そぐりセンター設置の実現に向け部会、関係機関の意識統一を進める。研修施設の整備に向けた事業計画支援
2次・3次：香美市での2次・3次ワーキングの設立
ニライベント開催。香南市学校給食での使用量増

農業⑤ 日本一のナス産地拡大プロジェクト (安芸市) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
次世代型ハウスの生産開始と、幕末維新博イベントと連携した消費拡大への取り組み検討

▼取り組み状況
1次：次世代型ハウス(ゆめファーム全農Nextこうち)の定植(8/8～9)
・12月末収量：5.3t/10a(目標の70%)
・雇用労働力の確保：研修施設(アグリド)などによる作業体験研修による雇用労働力確保の取り組みにより、4名の方を生産者に紹介
2次・3次：道の駅大山改修後の誘客策協議及びアドバイザー提案メニューの試食会の実施(6/27)
・道の駅大山「レオパ」2/21、オリーブ3/2、ナスを使った新メニュー(カレー)提供
・あきナス6次産業化プロジェクト協議会(仮称)準備会の開催、安芸市内飲食店へのアンケートによる、ナスメニュー、仕入先の実態調査(5/23、7/24)
・安芸市内ナス料理マップ作成検討(2/21、3/22)

▼課題
・全農の次世代ハウスにおける労力確保(パート等)、農福連携の検討
・ナス30t/10a実証の継続
・安芸産ナスが安芸市内に安定的に供給される仕組みの構築
・地域内に加工業者がない

【H30年度の主な取り組み予定】
1次：環境制御技術の導入面積の拡大
2次・3次：「安芸ナス」を地域内で認知度を上げる取り組みを実施。安芸市内ナス料理マップの作成。ナス料理提供店舗でのスタンブラーの実施検討

農業⑥ 嶺北畜産クラスターによる地域の活性化(嶺北地域) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
土佐あかうし、大川黒牛、土佐はちきん地鶏の増頭・増羽、土佐はちきん地鶏の食鳥処理・加工施設の整備及び販売促進、さめうら荘建て替え工事着工

▼取り組み状況
1次：(株)れいほく未来の土佐あかうし飼養頭数の増(H28:177頭→241頭/H30.2月末)、土佐あかうし堆肥舎完成(7月)
2次：食鳥処理・加工施設完成(8/9落成)
・県版HACCP(第3ステージ)認証の取得(12月)
3次：大川村PT産業振興部会(4回)及び販売に関する協議、土佐はちきん地鶏の産振アドバイザー活用によるブランドの再構築
・カヌーのまち嶺北推進協議会設立(5月)、さめうら荘建て替え工事着工(10月)、ハンガリーホストタウン登録(12月)

▼課題
・飼育管理技術の向上
・土佐あかうし堆肥の活用
・土佐はちきん地鶏のブランド化
・さめうら荘建設(H30)に向けた誘客の仕組みづくり

【H30年度の主な取り組み予定】
1次：さらなる増頭・増羽、土佐あかうし堆肥の活用に向けた企業との連携(農商工連携事業の活用)
2次：完成した施設での確実な食鳥処理及び加工品の生産
3次：土佐はちきん地鶏の首都圏等における営業活動の強化、土佐れいほく博(仮称)の開催に向けた準備

農業⑦ 四万十ポークブランド推進プロジェクト(四万十町) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
年間出荷頭数の増加、営業活動等による販路の拡大

▼取り組み状況
1次：平野協同畜産既存畜舎3棟の補改修工事完了
・防疫研修会の開催、農場HACCPの推進
2次・3次：四万十ポークブランド推進協議会総会を開催
・四国デロックファームが新たに豚まんを商品化
・四万十どんぶり街道の開催(16店舗参加)
・加工場(豚まん他)の基本計画作成

▼課題
・畜舎の老朽化、環境問題への対応
・豚加工品の安定生産と販路拡大

【H30年度の主な取り組み予定】
1次：高能力優良種豚の導入・増頭による出荷頭数の増頭
・豚の疾病対策強化、事故率の低減実証
2次・3次：四万十町の地域資源を活用した加工品の生産ライン拡大に向けた実施設計の作成(関連：高幡地域AP13)
・四万十ポークの精肉・加工品をふるさと納税返礼品として県内外へ発送
・新商品開発、販路開拓
・イベントや商談会等へ参加し、四万十ポークを周知

農業⑧ いの町生姜生産・販売拡大プロジェクト(いの町) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
生姜の生産基盤の強化と幕末維新博イベント等での生姜スイーツ等販売検討

▼取り組み状況
1次：生産面積の拡大(91a増加、合計2,012a)
・生姜で産地提案書を作成(2名が研修開始)
・JAコスモス生姜集出荷場落成(12月)
2次：いの町産生姜を使って伊野地区生活改善グループ連絡協議会が3品(プリン・佃煮・クッキー)をレシピ化
・道の駅木の香でパウンドケーキ等を試作
・南国SAで、いの町産生姜を使ったジンジャーカレーをメニュー化
・地元飲食店が、お菓子「鬼に金棒」を商品化
・いの町内の生姜加工品リスト化(21品リストアップ)
3次：しょうが焼き街道の関連イベント(生姜スイーツ)を8月から6店舗で実施
・11月からしょうが焼き街道イベント実施
・kami祭での収穫直後の生姜を販売
・かみのひなまつりでの生姜加工品の展示

▼課題
・生姜の生産量の確保(生産面積の拡大、栽培技術の向上、新たな栽培候補地の確保)
・研修生の栽培技術等の習得
・町内での商品提供・販売の強化
・しょうが焼き街道の充実(生姜スイーツのPR強化及び参加店舗の拡大、加工品レシピの共有による商品化)

【H30年度の主な取り組み予定】
1次：栽培管理等の指導、生産面積拡大の候補地選定
研修生に対する定期的な勉強会の開催
2次・3次：しょうが焼き街道のスタンブラーと生姜スイーツの連携強化

農業⑨ 四万十の栗プロジェクト(四万十町) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
栗ペースト加工施設の整備とチーム活動による栗の生産性の向上

▼取り組み状況
1次：栗再生プロジェクト推進協議会の開催(6/28)
・剪定技術者による講習会を実施(6月)
・出荷量:24,211kg(前年比131%)
・新改植本数:1,485本
(十和1,007本、大正478本)
2次：栗ペースト加工施設のしゅん功(9月)
・加工アドバイザーによる加工商品化に向けた指導
3次：WGの構成メンバー決定

▼課題
・生産量増加のため、生産者が栗の剪定技術への理解を深め、剪定技術の更なる向上を図る
・栗加工品販売先の確保
・H30補助事業を活用した加工場・機械導入の検討
・2次3次WGでの活動

【H30年度の主な取り組み予定】
1次：剪定技術の普及や新改植の推進により生産量の増大を目指す。
2次・3次：WGの定期開催、観光分野との連携を推進
四万十次世代モデルプロジェクトとの連携(次世代団地のトマト茎等を堆肥化し、栗の生産に活用する体制づくり)
・新規加工施設の建設場所の決定
・栗加工品販売先の確保

凡例
[●] …二次・三次ワーキンググループ設置済
[★] …クラスタープラン策定済
[▽] …対象外

地域産業クラスタープロジェクトの平成29年度の進捗状況等と平成30年度の展開②

林業① 林業・木材産業クラスタープロジェクト(県内一円) ▽▽

【H29年度の取り組み状況と課題】
製材事業者の事業戦略づくりによる経営力の向上、CLTを含めた木材需要の拡大、林道整備の促進による原木生産の拡大

- ▼取り組み状況
- ・事業戦略づくりの普及啓発のためのセミナー開催
 - ・事業戦略づくりの支援開始(2事業者)
 - ・CLTの建築物の促進(完成6棟、構造・完成見学会4回)
 - ・コンテナ苗生産の推進のための技術支援、勉強会(8回)
 - ・住友林業(株)コンテナ苗生産施設・生産開始(5/24～)
 - ・コンテナ苗植栽調査(8/28,29)
 - ・コンテナ苗を活用した皆伐・再造林の一貫作業システムの適地調査(3箇所)

- ▼課題
- ・事業戦略づくりの浸透及び取り組む事業者の拡大
 - ・CLT等の普及、コストダウン、建築士の育成

- 【H30年度の主な取り組み予定】
- ・事業戦略の策定及びその実践への支援
 - ・事業戦略の取り組みの報告会の開催
 - ・需要者視点に立ったCLTの普及手法の検討
 - ・CLTの建築物の促進・技術研修会等の開催
 - ・TOSAZAセンターを設置し、A材の需要拡大に向けて外商体制を強化(通年)
 - ・住友林業(株)コンテナ苗生産施設における出荷開始(5月)
 - ・コンテナ苗生産者技術支援(通年)
 - ・コンテナ苗を活用した皆伐・再造林の一貫作業システムの検証

林業② 嶺北地域の林業クラスターによる地域の活性化(嶺北地域) ●

【H29年度の取り組み状況と課題】
原木の安定供給、林業研修者確保対策、嶺北材及び木工製品の販売促進活動、スギコンテナ苗出荷

- ▼取り組み状況
- 1～3次：嶺北広域原木安定供給協議会開催(2回)
 - ・素材流通等のICT化に伴う作業部会の設置等
 - 1次：森林組合ほか素材生産事業者(12事業者)との協議・支援、「森の教習所」研修実施(2回)
 - ・西峯スギコンテナ苗出荷(12,300本)
 - 2次：ストックヤード造成工事の継続
 - 3次：商談会・フェアへの出席
 - ・ばむむ合同会社木工製品(6回)
 - ・れいほくスケルトン(2回/香川)

- ▼課題
- ・原木の安定供給
 - ・コスト及び需要供給のバランスの調整
 - ・「森の教習所」研修者の確保
 - ・嶺北材の販路拡大
 - ・スギ苗の継続的な販売先の確保と栽培技術の向上

- 【H30年度の主な取り組み予定】
- 1～3次：嶺北広域原木安定供給協議会の開催、未整備森林における所有者及び資源情報の集約化事業(案)の実施、素材流通等のICT化の継続実施、西峯スギ苗の移植作業の効率化(油圧駆キャビティ培土圧入機の導入検討)及びハウス内の室温管理に関する検討
 - 2次：犬小屋制作工房Kの新工場の整備
 - 3次：れいほくスケルトンの四国内(香川県中心)における販売活動の強化

林業③ 佐川町で展開する自伐型林業での木材産業クラスター(佐川町) ●

【H29年度の取り組み状況と課題】
森林長期施業管理契約締結の推進、地域おこし協力隊の採用・育成と自立化による自伐型林業のビジネスモデルづくり、地域おこし協力隊(発明職)の採用、さかわ発明ラボ事務所を移転しラボ機能を集約整備

- ▼取り組み状況
- 1次：地域おこし協力隊の採用(4名)
 - ・「チームさかわ農林業の会社の設立検討会」の開催
 - ・山林の集約化に向けて尾川地区でアンケートを実施
 - 2次・3次：地域おこし協力隊(発明職)の採用(3名)
 - ・さかわ発明ラボの事務所移転に伴うオープニングイベントやワークショップの開催
 - ・道の駅検討委員会が道の駅候補地を佐川町に提案

- ▼課題
- ・山林の集約化
 - ・自伐型林業のビジネスモデルの構築

- 【H30年度の主な取り組み予定】
- 1次：森林長期施業管理契約締結による集約化の推進
 - ・検討会等による法人設立に向けた協議
 - 2次・3次：道の駅の設置について継続検討

水産業① 土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト(土佐清水市) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
「土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト推進協議会」が発足、クラスタープランを承認(4月)

- ▼取り組み状況
- 1次：「土佐清水メジカ需給調整対策協議会」の開催(6月)
 - ・新規就業者支援事業等を活用して新たな担い手を確保：6名(4名が研修中)
 - 2次：冷凍保管施設の整備に着手(実施設計、本体工事)
 - 3次：「宗田節をもっと知ってもらいたい委員会」は、市内の飲食店や宿泊施設などと連携したイベント等を協議
 - ・宗田節ロードの実施(11.1～10.31)
 - ・H28年度：11店舗→H29年度：21店舗に拡大
 - ・県内外イベントでのPR「メジカプロモーション会議」は、加工品開発やブランド力向上を目的として発足(6月)
 - ・プロモーション先進事例の検討
 - ・宗田節入札会、宗田節祭り開催に向けた協議

- ▼課題
- ・担い手の確保、加工原魚の安定確保、交流人口の拡大

- 【H30年度の主な取り組み予定】
- 1次：現行の研修生4名の円滑な漁業参入
 - 2次：冷凍保管施設の整備
 - ・残さい加工施設の実施設計
 - 3次：宗田節入札会、宗田節祭りの開催(4月)
 - ・宗田節ロード2018
 - ・宗田節の統一ロゴ作成
 - ・食と体験型メニュー(宗田節製造体験など)とのコラボレーションを進める

水産業② 宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト(宿毛市、大月町) ●★

【H29年度の取り組み状況と課題】
クラスターの核となる施設整備やP・Dセッション活動等を支援

- ▼取り組み状況
- 1次：民間企業がクロマグロ人工種苗の中間育成を開始、4回の中間育成で7,700尾の種苗を生産し、うち2,100尾を試験出荷(9月)
 - 2次：宿毛市で、民間企業2社による養殖魚の前処理加工施設整備が進展(稼働1社、整備着手1社、3月)
 - 3次：大月町の養殖マグロのプロモーションの実施主体となる「マグロのまち大月推進協議会」が発足(5月)
 - ・マグロ祭りin大月町産業祭の開催(11月)
 - ・モニターバスツアーの開催(2月)

- ▼課題
- ・生産拡大に向けた人工種苗の普及
 - ・安定的な販路の確保
 - ・加工施設の従業員確保
 - ・交流人口拡大に向けた受け皿作り
 - ・P人工種苗の量産技術の確立

- 【H30年度の主な取り組み予定】
- 1次：クロマグロ人工種苗の事業レベルでの生産展開
 - ・P人工種苗量産技術の開発
 - 2次：宿毛市での、民間企業による水産加工施設の整備
 - ・水産加工施設の衛生管理の高度化(HACCP認証取得に向けた専門家の活用等)
 - 3次：飲食店メニューのブラッシュアップ
 - ・食(マグロ)と観光メニュー(マグロ祭り、グラスポートほか)をパッケージ化したツアーの企画

水産業③ 宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト(土佐市、須崎市)

【H29年度の取り組み状況と課題】
市町村によるクラスタープラン策定を支援

- ▼取り組み状況
- 全体：土佐市と須崎市の宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクトのプラン策定に向けて協議中
- 1次：アサリ垂下式養殖の採算性検討を開始
 - ・アサリ資源回復に向け、大規模被せ網を実施
 - 2次：アサリ食害生物の利用方法について調査研究開始
観光客向け弁当提供の検討
 - 3次：浦ノ内湾釣筏渡船振興会が釣筏利用拡大に向けて小・中学校への営業や須崎市観光協会との協議を実施

- ▼課題
- ・プロジェクトの事業実施主体となる事業者、団体の確保

- 【H30年度の主な取り組み予定】
- 全体：土佐市は現段階のプラン案で取り組みを進め、須崎市はプラン案作成を行う。須崎市のプラン案が完成した時点で土佐市と合体させ、プランを策定する。
- 1次：天皇州のアサリ資源の管理方法の検討
 - ・採算性検討の結果を受けてアサリ垂下式養殖の事業規模での実施を検討
 - 2次：アサリ食害生物の利用方法について引き続き調査研究を実施
 - ・地元食材を利用した弁当の開発
 - 3次：宇佐地区での民泊施設を活用した観光振興の取り組み
 - ・小中学校による釣筏の利用拡大に向けた取り組み
 - ・新たな体験メニューの検討
 - ・宇佐・浦ノ内地区における遊漁船業等の旅行商品化

食品加工① 加工・業務用野菜の産地化プロジェクト(県内一円)

【H29年度の取り組み状況と課題】
試験栽培品目、試験栽培面積の拡大、販路となる事業者の訪問・アンケート調査の実施

- ▼取り組み状況
- 1次：落宮農組織等における加工・業務用野菜の試験栽培の実施
 - ・四万十市の集落営農組織でキャベツの試験栽培を実施(10～3月)
 - ・土佐清水市の集落営農組織でジャガイモの試験栽培を実施(9～1月)
 - ・香美市西永野地区でネギの試験栽培を実施(通年)
 - ・加工・業務用野菜の産地化セミナーの開催(7/6、生産者、流通事業者、加工事業者、JAグループ、行政機関等、約100名が参加)
 - ・広島県への先進地視察を行い、加工・業務用キャベツ、水耕ネギ産地の視察及び意見交換会を実施
 - 2次：県内量販店及び一次加工事業者訪問(8社)及びアンケート調査

- ▼課題
- ・生産者(試験栽培を含む)の確保
 - ・本県の農地の条件や生産者に適した品目の選定及び産地規模の設定

- 【H30年度の主な取り組み予定】
- 1次：集落営農組織等における試験栽培の実施
 - ・加工・業務用野菜の産地の掘り起こし
 - ・水田が活用できる栽培品目と生産出荷体制の検討
 - ・加工・業務用野菜の産地化セミナーの開催
 - ・先進地視察による情報収集

食品加工② 株式会社フードプラン、仁淀川町等を中心としたカット野菜事業クラスター(仁淀川町) ★

【H29年度の取り組み状況と課題】
県外量販店や大手惣菜製造工場との取引拡大とあわせ、加工・業務用野菜の産地形成を推進

- ▼取り組み状況
- 2次：新工場の整備(3月完成)
 - ・新工場整備にかかる関係者協議の定期開催(毎月)
 - ・新たな野菜加工品づくりに向けて、製造用機器を整備

- ▼課題
- 1次・3次：原料生産体制及び観光ブランディングについて、関係機関等との協議が必要

- 【H30年度の主な取り組み予定】
- 1次：チーム会による原料生産・担い手確保の仕組みづくり
 - 2次：関係者協議での進捗管理等により新工場の円滑な運営及び販売戦略推進を支援
 - ・新たな野菜加工品の発売に向けた販促活動
 - 3次：秋の観光シーズンに向けた「おでん」PRについて、関係機関と協議

その他① 奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター(奈半利町)

【H29年度の取り組み状況と課題】
奈半利町通販サイトを活用した販路拡大、就農支援施設の整備・活用による担い手の確保、農水産物や加工品の集出荷センターの整備による集出荷体制の強化、集落活動センターの経営計画の策定

- ▼取り組み状況
- 1次：農業複合拠点運営委員会の開催(2回)
 - ・トラクター、畔塗機等を導入
 - ・農作業(畦塗り、稲刈り等)の受託や不耕作地を活用したジャガイモ等の栽培、町レンタルハウスを活用しナスの生産開始
 - 2次・3次：奈半利味噌などの新パッケージの開発や加領郷魚舎(なや)の新商品の開発
 - ・集出荷センターの整備

- ▼課題
- ・新規就農者の確保
 - ・加工施設(製造・商品開発)の人材確保、育成
 - ・加工施設の廃棄ロスなどコスト削減や新たな販売先の確保

- 【H30年度の主な取り組み予定】
- 1次：新規就農者等の受け入れ
 - ・特産農産物(イチジク、水稻等)の栽培地の拡大
 - 2次・3次：新たな販路拡大のための既存商品の磨き上げ及び新商品の開発
 - ・集出荷センターの稼働(4月)に伴う、受発注管理システムの構築
 - ・通販サイトの活用による販売強化

その他② 竹資源の活用による中山間地域の新たな産業の創出(高知市土佐山地区)★

【H29年度の取り組み状況と課題】
(同)高知竹材センターの集荷体制の充実、竹ブラシのラインナップの拡充及びタグ貼り等ブラシ会社から(株)コスモ工房への一部業務の移管

- ▼取り組み状況
- 1次：原竹の買い取りルール及び単価変更を実施
 - 2次・3次：ブラシの柄の加工・検品等の作業員募集の呼び掛けを実施
 - ・竹割り機改良の県内機械メーカーへの相談を実施
 - ・楽器メーカーへのマレット製造材料の一部供給(7月～)

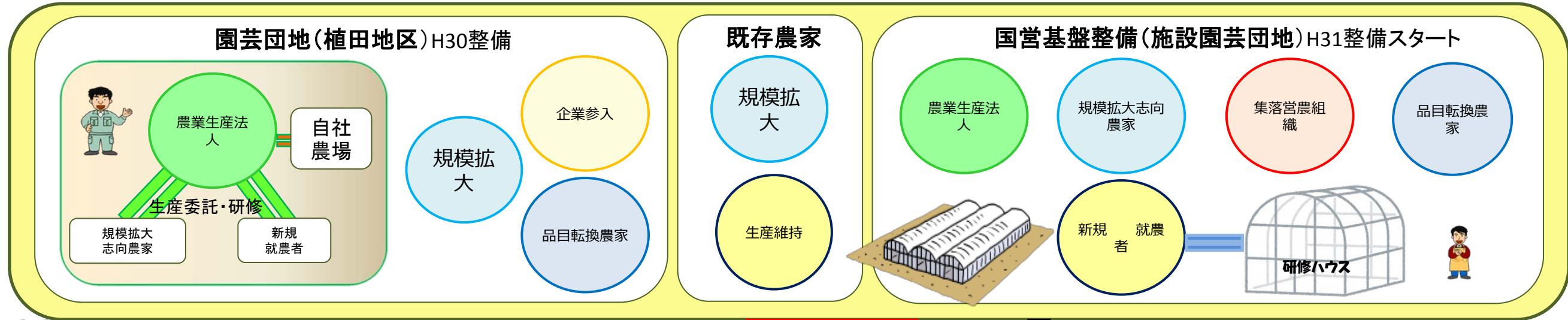
- ▼課題
- ・自動車のモデルチェンジによる竹ハンドルの需要減への対応
 - ・原竹の収量増に向けた供給体制の強化
 - ・竹材の新たな分野への販路開拓

- 【H30年度の主な取り組み予定】
- 1次：原竹の供給体制の強化及び集材エリアの拡大
 - 2次・3次：需要減となる竹ハンドルの部材供給から、今後需要の見込まれるブラシ材へのシフト変更
 - ・竹ブラシの生産量拡大や新たな部材・製品の生産に向けた加工機械等の導入検討
 - ・竹材を用いた新たな製品需要の掘り起こし及び販売促進活動の実施

NEW 南国市農業クラスタープロジェクト《ニラ》(案)

・農業生産法人が運営するそぐりセンターを活用し、地元農家や企業参入による生産拡大を図るとともに、直販所、レストラン、商工会等が連携し、クラスターの形成を図る。

【生産拡大】



【消費拡大】



南国の特色を生かした「稼げる農業」の実践

